

令和5年度第1回市民活動センター評価委員会 摘録

日 時：令和5年7月4日（火）午後1時30分～午後4時30分

場 所：京都市文化市民局地域自治推進室 会議室

出席者：

（委員、敬称略）中井 歩（京都産業大学法学部教授）＜委員長＞
東郷 寛（近畿大学経営学部准教授）＜副委員長＞
伊豆田千加（特定非営利活動法人子育ては親育て・みのりのもり劇場理事長）
鈴木 ちよ（市民公募委員）
裕井 大治（公認会計士）
森本 純代（一般財団法人藤野家住宅保存会理事）

（事務局）京都市文化市民局地域自治推進室

地域コミュニティ活性化

・北部山間振興部長 平井 淳史

市民活動支援課長 小林 寛

市民活動支援係長 別所 隆男

担当 高山 玲子、岩沢 真梨絵

傍聴者：3名

取材者：なし

議 事：令和4年度 いきいき市民活動センター事業の報告

開催概要

1 開 会

2 議 事

7つのいきいき市民活動センター（以下「いきセン」という。）指定管理者が令和4年度に実施した事業についてプレゼンテーションを行い、事前に提出された事業報告書も踏まえ、委員から質疑を行った。

<下京いきいき市民活動センター>

（東郷副委員長）

利用料金収入について、増加させていくことを考えていると思うが、今後考えていることがあれば教えてほしい。学割や週末、ウィークデーの割引など属性や時間帯で考えていること等あるか。

（下京いきセン）

現在の利用料金は条例の上限額で設定している。利用料金制の導入時に料金設定については、京都市と話をしており、その中で割引は一度導入するとその後の変更が難しいことや公平性の点から、踏み込めなかったものである。ただ、御指摘いただいたように割引的なものについては十分検討の余地があると考えている。

(東郷副委員長)

下京いきセンの取組に地域外の方も参加しているようだが、区外から来る方は大学生が多いのか。

(下京いきセン)

下京区に大きな大学のキャンパスがないというのが影響していると思うが、他の地域から来る学生がほとんど。京都府外からの学生もいる。他の地域からこられる学生が多い。また、お勤めの方も京都市内で働いているが、滋賀県在住というような方もいる。

(伊豆田委員)

素敵な活動を幅広くしている。職員9名は、どのようなジャンルの方か、また、それぞれの広報のデザインも素敵で、どのような方が作っているのかも教えてほしい。

(下京いきセン)

スタッフ9名の内訳については、常勤は2名で、あとはアルバイトスタッフである。アルバイト7名のうち4名は学生スタッフであり、学生スタッフは元々センターの事業に関わった者が多いため事業に対する理解があり、そのような点がデザインにも反映されていると思う。

また、この職員体制とは別に今年度から始めたものとして、副業型研究員というものを設けて契約を結び一緒に事業を運営している。

事業者×市民活動の連携を基にした魅力発信持続化支援事業の伝統産業の充実・課題解決のところでは、中小企業診断士の資格を持ったまちづくりに関心のある方が副業として月1回くらい関わっていただいている。

また、観光のところも旅行代理店にお勤めの方の副業という形で、事業と一緒に運営しており、資料には出てきていないが、知見を持った方に御協力いただいて事業を進めている。

(伊豆田委員)

副業型の方は何名おられるのか。

(下京いきセン)

現状2名である。

(中井委員長)

利用料金の値上げに伴い、活動を減らす、あるいはやめる団体がある一方で新規利用の団体もあると思う。例えば地元の方の利用が減る等について何か傾向はあるのか。

(下京いきセン)

正確に把握できていないわけではないが、御指摘の傾向はあると思う。これまで利用している地域内の団体が隣の青少年活動センターを利用するなどはある。一方で増えているのは、地域外の方で、増えている要因としては、音楽や演劇など芸術系の団体の利用が多い印象である。これらの団体は利用者間の口コミが大きいようだ。また、芸大移転で大学生の利用があるかという点、隣に無料で使える青少年活動センターがあるのであまりない。いきセンに来る学生は事業にひかれてという方が多いと思う。

(中井委員長)

学生利用でいうと、貸館というよりは事業に関心があつていきセンを利用するということ

か。

(下京いきセン)

そういうイメージである。芸大生から、センターで展示をさせてほしいという声があり、ロビーを展示スペースとして有料で貸し出すというようなことを早急に考えていく必要があると考えている。

(中井委員長)

場所も良いし、ギャラリーのようにできるのであれば非常に興味深い。

<左京東部いきいき市民活動センター>

(鈴木委員)

読み応えのある小冊子の作成などいろいろ良い取組をされている。気になった点として、文化ボランティア育成事業は良い取組で進めてほしいが、登録者が4名にとどまっているとのことである。報告書にもあるようにインセンティブなどが必要かと思うが、具体的に何か考えていることがあれば聞かせてほしい。

(左京東部いきセン)

普通に募集して参加してもらっても、ボランティア登録にはつながらないという現状がある。今は、子供向け事業（グッズの交換会）などであれば関わりたいという方がいるため、このルートで来てもらう、又は、工作が好きな方だと廃材アートの手伝いでも親子で一緒に来ていただく等を試みている。

インタビューのボランティア（インタビューに同行し文字起こしもする）にも来てほしいが、単発になりがちである。そのため編集にも一緒に関わってもらうなども含めて手法を考えているところである。関心とやりがいをセットにできるようコーディネートができればと思っている。

(鈴木委員)

やりたいという層はいるはずなので、そこにどのように届けるかが難しいのだと思う。学生などは割とサークルなどでつながりやすいのかもしれないが、問題は、学生以外で市民活動をされている方につなげるにはどうすればよいのか。

(東郷副委員長)

連携している社協にはボランティアネットワークがあると思うが、そのあたりとの連携はどのように考えているのか。

(左京東部いきセン)

今後は考えていきたい。

(中井委員長)

文化ボランティア育成事業の登録者4名の世代や地域はどのようなものか。

(左京東部いきセン)

30～40歳代の子育て世代で、子供向けのイベントがあるときに手伝いに来てもらっている。また、地域については、いきセンから近くはないものの左京区内である。

(森本委員)

その4名の方は顔見知りなのか、関係性について分かれば教えてほしい。

(左京東部いきセン)

一部のみが知り合いである。

(伊豆田委員)

利用料金が上がり、利用者数が減っている中でも、ある意味効率的に利益は上がっているかと思うが、収入金額は前年度比でどのような感じか。

(左京東部いきセン)

結果的に利用料金制導入以前と同額程度をキープできている状態である。

(松井委員)

収支の状況について、人件費が予算額よりも 130 万円ほど超過しているが、この理由を教えてください。

(左京東部いきセン)

退職者へ退職金を出したことによるものである。

<左京西部いきいき市民活動センター>

(鈴木委員)

以前、課題として指摘されていた外国籍の住民を取り入れたイベントの実施や、サロンを高齢者専用から多世代の拠点にするなど非常に素晴らしいと感じた。

今年度から利用可能となった事業者利用が 4 件 19 時間とあり、今後利用率を上げることが課題と記載されているが、可能な範囲で事業者利用の状況について教えてください。

(左京西部いきセン)

最も大きいのは、このうち 2 日間はマイナンバーカード取得促進のため京都市から委託を受けた事業者が利用したものである。その他は近所で工事をする事業者が控室として利用したものである。市民活動を圧迫してはいけないこともあり、周知もそこまでできていない。

(鈴木委員)

とはいえ 4 件からは増やしていきたいということか。

(左京西部いきセン)

平日夜や土日は市民活動の利用が多いが、平日昼間などは比較的空いているので、休憩所として利用してもらえるのは我々としても助かっている。

(東郷副委員長)

外国籍市民の利用に関して、この地区でどれくらいの国籍の外国人が住んでいるのか把握しているか。

(左京西部いきセン)

13 か国と聞いたことはある。いきセンをよく利用しているのはフィリピンやバングラデシュ、最近ではロシアの方が多い。以前は韓国の方の語学利用が多かったが今はそうではない。英語圏の方は親子で英語教室のようなことをされていたりする。

(東郷副委員長)

外国籍の方にとっては母国とのルールの違いなどがある。役所に行くときなどに、「ここに行ったらいいよ」とアドバイスもらえる場所のような役割が必要と思うが、その点について

での認識は。

(左京西部いきセン)

まさにそうだと考えている。ごみの出し方の多言語の説明についても「こごみネット」を参考に、知りたい場所に行くまでの情報提供などを行っている（こごみネットは3か国語（英、中、ハングル）のため）。ごみの捨て方については日本人からの苦情が多いため、まだ着手できていないが、その点についても取り組んでいきたい。また、子育てについてもいきセンが日本人と外国人の関わりでの導入部になれるように考えていきたい。

<中京いきいき市民活動センター>

(森本委員)

既に活発に活動されている方を上手にコーディネートし、多様な事業を展開している。また、これから活動しようという気持ちはあるが、まだ形になっていない人たちをサポートするという両方をしていて素晴らしいと感じた。

職員育成の研修について、どのようなものに関心があり、具体的にどのような研修を受けているのか。

(中京いきセン)

SDGsであれば、京都大学のエコ〜るど京大が発信しているワークショップやイベントからヒントになるような情報を得て、内部で共有し新しい企画につなげている。

(森本委員)

スタッフ自身がまずは社会的なテーマに関して積極的に学んでいるということか。

(中京いきセン)

いきセンで活動されているグループ等から情報を聞き、参考にしている。

(森本委員)

利用者から情報が来るということは、利用者との情報交換会のようなものを持っているのか。

(中京いきセン)

多世代交流事業などを実施する中で、その参加団体の方と話をして情報を得たりしている。

(伊豆田委員)

開花したと思う。話を聞いていても入口から出口までしっかりつながっている。話にあった、大学生の案を形にできるようになった秘訣は何か。他のセンターと共有できれば素晴らしい。

(中京いきセン)

とりあえず一緒に話をする中で1回やってみるという思いで取り組んでいる。SNSが得意な人がおり、いきセンの取組や活動団体の取組を多く掲載するようにしている。LINEは少しでも多くの人に中京いきセンを知ってもらうための窓口であると考えている。

(中井委員長)

SDGsの中で大学のサークルとつながっているが、ソフトバンクとはどのようにしてつながったのか。

(中京いきセン)

エコ〜ると京大の中にソフトバンクの方がおりつながった。高齢者からスマホの使い方講座の要望が寄せられており、ソフトバンクと連携できないかということで話を進めたものである。

(東郷副委員長)

多世代交流事業の中で、高齢者の孤立化、無縁化、貧困化を課題として取り組んでいるが、社協との連携は考えているのか。

(中京いきセン)

地域の社協の方とはつながっており情報を共有している。

(東郷副委員長)

孤立化しがちな人は分かるが、すでに孤立している人を見るような動機付けなどは考えているか。

(中京いきセン)

指定管理者である法人独自の取組として高齢者の見守り活動なども行っており、孤立している方もある程度把握している。この点については、学区内の社会福祉協議会とも連携している。

<東山いきいき市民活動センター>

(伊豆田委員)

「N u i N u i L a b o」のインスタを見ると結構なフォロワーがいる。東山の中でそれぞれにSNSなどを立ち上げているようだが、いくつ管理しているのか。また、動画チームがあるとのことだが、T i k T o kを考えているのかを教えてください。

(東山いきセン)

SNSとしては、「N u i N u i L a b o」で1つ。あと「i I N A」はSNSではないがブログ機能のあるn o t eを活用している。センターの代表アカウントは「ツイッター」を利用している。また、「ソーシャルエコーズ」はY o u T u b eチャンネルを使って情報を発信している。インターネットラジオに関しては無料のソフトを使って発信している。

T i k T o kに関してはかなり難しいと感じている。若者に見せていくのは大事だが、作り込みが必要であり、我々としてもそこまでのノウハウがないため、まずはY o u T u b eでの動画発信をしているところである。

(鈴木委員)

「みんなの学校ごっこ」は、オンラインを経てオフラインになったことの良さなど、オンラインで培った強みを残しつつのハイブリッド的な部分のフォローを考えているのか。

また、利用促進に向けた取組で、いきセンの中で先駆けてネット予約を実施しているが、便利でハードルが下がるがゆえにドタキャンなどの対策はどうしているのか。

(東山いきセン)

「みんなの学校ごっこ」ではいろいろなことが分かった。皆オンラインに慣れすぎて、いざオフラインになると足が遠のくようになり、今まで普通に來てくれていた方から「オンラ

インはないの？」との問合せがくるようになった。コンテンツが充実していないと足を運びにくい世の中になったように感じている。我々としてはコンテンツの魅力も必要ではあるが、市民の方が自分の好きなこと、大事にしていることを発信しているため、それが世の中に必要とされているのかという点については、正直分かりづらいところもある。一般的にやるならば著名な人を呼べばよいが、我々はそこを狙いとはしていないため難しい。オンライン慣れしてしまった世の中にこういうコンテンツを持ち込む難しさがあると感じた。オンデマンドという形で後日見ていただく方を増やしていくのは必須になると思う。そこについては我々としてもコロナ禍で知見を高めている。

予約システムのドタキャンについては、既存のシステムを使っているのも、難しいところはあるが、キャンセルをしても返金ができないような仕組みとなっている。

<北いきいき市民活動センター>

(森本委員)

船岡西通り教育ストリートワークショップは、子供たちの目線でよく通るところがどう見えているかを可視化し、子供たちを取り囲む保護者、学校の先生と一緒に地域を良くすることを考えているという点が素晴らしい。これはどのような経過で始まったものなのか。

(北いきセン)

これは施設が移転するときに楽只小学校の通用門が千本通に面しており、船岡西通りは裏門ということで子供たちが通用するような啓発、施設面でのサポートがなかった。移転前から児童館、保育所の出入口は決まっていたため、なんとかしないといけないとの話は移転前からあった。移転後、ドライバーが休憩していたり、かなりの量の車での送迎などもあったため、保育所、児童館、親御さん、子供たちに参加してもらいワークショップを開催したものの。

(中井委員長)

利用料金制度になって利用が減っているセンターが多い中で利用が増えている。これは新規の利用が増えているということか。新制度になって利用形態、利用団体に变化があるようであれば教えてほしい。

(北いきセン)

利用料金の設定の際にできるだけ安く使ってもらえるようにした。新規の利用も増えているが、他のセンター利用者も来てくれているようだ。

(中井委員長)

稼働率はどうか。

(北いきセン)

平日昼間も含めて、ほぼ90%以上の状態である

<岡崎いきいき市民活動センター>

(東郷副委員長)

岡崎という場所は利便性も良いため、他の地域から来られる方も多いと思うが、地域の高齢者の方に関わる孤立などの問題もあると思う。このあたりの社会環境を作る、社会参加

へのアクセスという視点からの市民活動機能として役割を果たしていくべきだと思うが、その点の取組や考えがあれば教えてほしい。

(岡崎いきセン)

特別、社協と組んでということはないが、利用者にも高齢者が多いため、少し認知機能が落ちてきた方への対応として、認知症の方への対応の研修として、地域の包括支援センターと一緒にどのようなフォローをすればよいのかなどについて取り組んだ。岡崎の老人福祉委員といきセンを使って定期的に集えるような取組を考えている。

(東郷副委員長)

次年度からでよいので、報告書の中に利用者の年齢、地域なども入れてもらえると、我々に取組内容がより伝わって良いと思う。

(伊豆田委員)

実施した8つの事業の中で、一番楽しかった事業はどれか。

(岡崎いきセン)

一番楽しかったのは、相談育成事業である。今までいろいろな相談を受けても予算を付けられなかったが、令和4年度からいきセンの人員配置基準が緩和されたこともあり、より深く事業に関与できるようになった。センター利用で音楽を発表したい人たちと地域の児童館などと一緒にいき、丁寧なコーディネートができたことは楽しかった（従来は電話で紹介して終わることが多かった。）。)

(森本委員)

センター利用者に同行するという話は、相談者が不慣れで、どのように手続すればよいかわからないため同行したということか。

(岡崎いきセン)

そのとおり。例としては、グループの方にいきセン以外の発表場所を紹介するために一緒についていくなどしたり、日本語に不安がある外国の方のグループのコーディネートに同行するなどしたもの。

(森本委員)

相談やコーディネートについては、これまでもあったが、人件費などの制約でなかなかやり切れない部分もあったが、令和4年度から制約がなくなりできるようになったということか。コーディネーションではつなぎ先とのネットワークや知識、情報の蓄積が必要になると思うが、それはこれまでのいきセン運営の経験で蓄えたものでやっているのか。

(岡崎いきセン)

意外に口コミが多く、相談を受けて、調べていく中で連絡を取ることも多い。

(森本委員)

始めようと思った人が、一歩を踏み出すことができるのは素晴らしい。

以上